

平成 30 年度 財務諸表の概要

横須賀市は、平成 10 年度決算から企業会計（民間企業が採用する複式簿記の手法）の考え方を取り入れた財務諸表を作成しています。

平成 28 年度決算からは「統一的な基準」により、貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・資金収支計算書の 4 種類の財務諸表を作成しています。

市の予算決算は、市民の皆さんにご負担いただいた税金などの使い方について計画と結果をお知らせするものですが、その中で生まれる資産（財産）や負債（借金）を加えて、どのような財政状況かを示すものが財務諸表になります。

一般会計等、その他の特別会計を含めた「横須賀市全体会計」、そして外郭団体なども含めた「連結会計」と、対象会計別に 3 種類の財務諸表がありますが、ここでは一般会計等版を掲載しています。

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

貸借対照表

「貸借対照表」は、公共施設や学校、現金などの市の資産と、それらを取得するために使われた市税や市債（借金）などの財源を示しています。

資産の合計と（負債＋純資産）の合計が同じ額でバランスが取れることから「バランスシート」とも呼ばれています。

資 産 6,698 億円

市が所有する財産の金額です

【内訳】

有形・無形固定資産	6,188 億円
投資その他の資産	335 億円
流動資産	174 億円
うち現金預金	50 億円

負 債 2,032 億円

左の資産を形成するための市債（借金）など、将来世代が負担する金額です。

純資産 4,665 億円

左の資産を形成するために今までの世代が負担した支払済みの金額です。

計 6,698 億円

計 6,698 億円

資金収支計算書

市の 1 年間の現金収入と支出が、どのような原因で増減しているかを表します。

経常収支から公共資産整備収支や投資・財務的収支に市の一般財源を充当し、借金の返済などに使っていることがわかります。

H29 年度末残高 43 億円

当期収支 4 億円

【内訳】

業務活動収支	54 億円
投資活動収支	△96 億円
財務活動収支	46 億円

H30 年度末残高 47 億円

+歳計外現金残高 3 億円

純資産変動計算書

市の純資産が、平成 30 年度中にどのように増減したかを表します。

H29 年度末残高 4,623 億円

当期変動高 43 億円

【内訳】

純行政コスト	△ 1,178 億円
財源調達分	1,175 億円
資産評価替えなど	45 億円

H30 年度末残高 4,665 億円

行政コスト計算書

市の行政活動は、公共施設の整備のように資産形成につながらない保健医療や福祉、ごみの収集といったサービスが数多くあります。

行政コスト計算書は、このような行政サービスのコストと使用料などの受益者負担金を対比させ、サービスの提供にどのくらいの税金（国県補助金等を含む）を投入しているのか表しています。

経常行政コスト① 1,279 億円

【内訳】

人にかかるコスト	274 億円
職員給与など	
物にかかるコスト	392 億円
物品購入費、修繕費など	
移転支出的コスト	591 億円
児童手当などの給付費など	
その他のコスト	22 億円
市債の利子など	

経常収益② 98 億円

施設使用料など行政サービスの受益者負担金です。

臨時的経費③ 4 億円

資産除売却などによる損益。

純行政コスト①-②-③ 1,178 億円

経常行政コストから受益者負担金を差し引いた額です。

この額が税金で賄われていることを表しています。